赤れんが庁舎改修事業　屋根銅板の葺き替えについて

赤れんが庁舎の**屋根の銅板**は銅の経年変化により**色が変わってきました。**

昭和43年秋（復原改修直後）

復原改修工事では、新しい銅板で屋根を葺いたので、赤褐色でした。

昭和44年秋頃

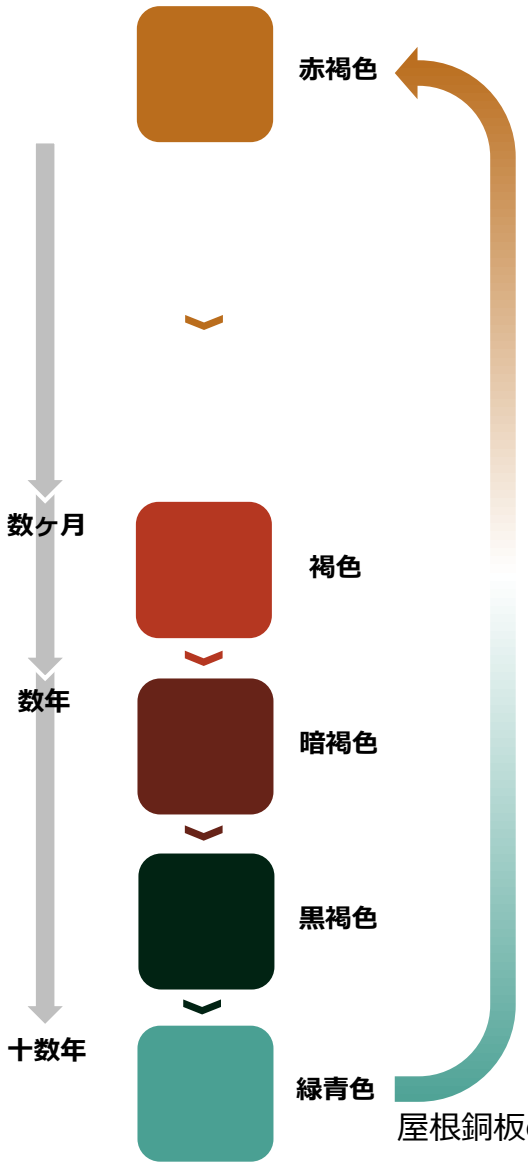
竣工の1年後には、既に落ち着いた褐色になっています。

現在（改修工事前）

現在は、緑青が吹いており、青みがかった緑色です。

銅の色の経年変化

出典：一般社団法人　日本銅センター
http://www.jcda.or.jp/feature/tabid/83/Default.aspx



改修では、新しい銅板で葺き替える計画であり、**再び赤褐色**になる予定です。

銅は、空気中の硫黄化合物や酸素、二酸化炭素、雨などの水分と反応して表面に安定した酸化皮膜が生じます。

この酸化皮膜の化学反応が進むにつれ銅の色は変化し、最終的には緑青色になります。

- このたびの改修では、新しい銅板で葺き替える予定であり、**再び赤褐色**になる予定です。
- 葺き替え後は、また**十数年の時間をかけて緑青色へと変化**していきます。
- **葺き替え工事の様子は、仮設見学施設で見学することができます。**なお、**施工時期は決まり次第、ホームページなどでお伝えします。**